

プロジェクトアドベンチャー

プロジェクトアドベンチャーは、「新しい自分を発見し」、「自分をより好きになり」、「みんなと交わることの楽しさを学ぶ」ことを体験を通して学んでいく体験学習です。

プログラムの効果

豊かなこころを育む

信頼関係をしっかり築き、仲間のサポートを得てアドベンチャー体験を重ねていくことで、やさしさ、思いやり、こころの強さなどが育まれます。こうして気持ちに余裕ができると、自分とは異なる意見も受け入れることができるようになります。

肯定的な自己概念を形成

成功体験を重ね、みんなでがんばって達成感を味わうことで生きている意味を感じることができます。また、信頼関係をしっかり築き、自分を見つめることができることで自己概念が肯定的に変化することが報告されています。

自らチャレンジすることによる成長

居心地の良い場所から一歩でることもアドベンチャーです。やったことがない、どうなるかわからない、未知への不安、それを乗り越えて新しい世界に踏み出すことで、人は大きく成長することができます。

使える知識の獲得

アドベンチャーを利用して安心できる環境をつくります。そこで行われる協働学習では脳が活発に活動し、今までの体験や知識とのさまざまな関連付けが行われます。この関連付けが知識を実際につかえるものにできるかどうかのポイントとなります。



プログラムの特徴

子どもから大人までの幅広い対象

信頼関係づくりは人が成長するための環境のなかで最も大切かつ効果的な要素です。これは子どもでも大人でも変わりません。学校での利用もできますし、企業の研修でも使われています。

教育からセラピーまで、さまざまな使い方が可能

プロジェクトアドベンチャープログラムは人と人が関わり、学び活性化させるための一つの道具です。学校教育、野外活動、更生教育、地域づくり、企業研修、セラピーなどで現在使われています。

自然なプログラム展開でムリがない

プログラムを進める上で最も大切にしているのが、精神的にも身体的にも負荷の軽いものから少しずつ入っていくということです。プログラムは自然に無理なく進行するので、抵抗感なく体験することができます。

ファシリテーション(支援)が中心

「人は自らの力でよい方向に成長する力を持っている」という考え方に基づいています。したがって、プログラムを通して行われるのは、その成長を促進するためのお手伝い、つまりファシリテーションが中心です。

効果が持続

「自分で気づくことが成長の基本である」という考え方で、プログラムを通してそれを促していきます。そこで生まれる「気づき」は、人から押し付けられたものではないので時間がたっても効果が持続します。



標準的なコースとプログラム

●ローエレメント Low Elements

低い位置に設定されたコースです。「スポッティング」といって、グループのメンバーが互いに体で安全を支えあいながら挑戦します。コミュニケーションが必要なプログラムで、徐々に信頼関係が形成されていきます。



モホークウォーク

膝くらいの高さに張られたワイヤーの上を、全員が落ちないで渡りきります。



トラストフォール

下でスポッターが腕を広げて用意している中に、台の上から後ろ向きで倒れます。



ジャイアントシーソー

大きなシーソーの上に乗る、シーソーが地面に着かないように全員でバランスをとります。

●ハイエレメント High Elements

高さ6~7mに設定され、ハーネスとロープで、グループのメンバーに安全を確保してもらいながら挑戦します。通常、プログラムの後半に設定されますので、前半に築いてきた信頼関係によりハイエレメント挑戦のプレッシャーが自然に和らげられていることも体感できます。



手つなぎトラバース

上から下がっているロープを利用してチャレンジャー2人で協力しながら高所のワイヤー上を渡っていきます。



キャットウォーク

地上6mに渡された丸太まで登り、その上を歩く。仲間がロープで安全を確保しています。



パンパーボール

地上7mの台から宙吊りのボールを目がけてジャンプします。

●インドアプログラム Indoor Programs

室内でも実施可能なプログラムが300種類以上あります。グッズも利用しながら、仲間とともに課題解決に取り組みます。その課題解決の過程でコミュニケーションが及ぼす影響など、仲間との関わりを学んでいきます。



魔法のじゅうたん

1枚のシートに全員が乗り、シートから落ちずにシートを裏返しにします。



ボールトス

2人で1枚の布を持ち、布の上にボールを置き、隣のペアに渡します。



パイプライン

A地点からB地点まで、ビー玉などのボールを早く落さないように運びます。